

在シドニー総領事通信

第 45 回 日豪ビジネス 3.0

令和 3 年（2021 年）7 月 29 日

7 月 23 日、東京オリンピックの開会式を見ましたか？あなたは何を感じましたか？

205 の国と地域、そして難民選手団の選手の入場行進は本当に壮観で、世界中の人たちが東京に集まったことを実感しました。世界で活躍する大坂なおみ選手の聖火台点火も、日本人として誇らしく思いました。

組織委員会の橋本聖子会長は、世界中でコロナの困難を乗り越えようと日々尽力しているすべての方々への敬意と感謝を述べ、アスリートとスポーツの力こそが、希望を取り戻し、世界を一つにすることができると信じていると挨拶しました。日豪の選手も多数参加する今回のオリンピックが、そのような役割を果たせるよう、今、当地から日々応援しています。

ここシドニーでは、コロナのデルタ株の抑え込みが大きな課題で、外出制限令の 4 週間延長に加え、ワクチン接種を加速しています。在留邦人の皆様も、日々ご苦労が多いことと思います。総領事館では出勤者を最小限に抑えながら、領事窓口業務や領事メールの配信を継続しています。

このような困難に直面しているからこそ、日豪、そして世界の将来の発展に向けての取組を着実に進めることが大事と感じています。総領事館として最大のインパクトが出せるのは、やはり日豪ビジネスの後押しです。特に、戦後の貿易の拡大、近時の投資（特に M&A）の拡大に続き、これからはグリーンやデジタルなど新分野のイノベーションを通じて新たな価値と成長の源泉を共創する「日豪ビジネス 3.0」の時代になっていくでしょう。

今回の総領事通信では、日豪ビジネスの最近の進展や取組について紹介しながら、「日豪ビジネス 3.0」を実現する方途を皆様と一緒に考えていきたいと思えます。



G7コーンウォール・サミットでの日豪首脳会談
(2021年6月13日、内閣広報室)

●日豪首脳会談

6月13日に日豪首脳会談が行われました。英国コーンウォールでのG7サミットにはモリソン首相も招待されたので、その機会に実現したものです。

この会談の機会に、「技術を通じた脱炭素化に関する日豪パートナーシップ」が発表されました。菅総理とモリソン首相はこの発表を歓迎し、日豪経済関係を官民一体となって推進させていく重要性を確認しました。そして、日豪の経済分野での協力が、地球規模課題への対応をリードしていくためにも重要との点で一致しました。

発表文書にあるとおり、日豪両国とも、経済成長と雇用創出を確保しつつ、温室効果ガスの排出量を削減するためには、技術主導の対応が不可欠であると考えています。そのために、低排出及びゼロ排出技術の開発と商業化を可能な限り早期に加速するという目標を共有しています。今回発表されたパートナーシップは、このためのイニシアティブを日豪共同で策定し、支援しようとするものです。



第3回日豪経済閣僚対話でのティーハン貿易・観光・投資大臣（右上）、
テイラー・エネルギー・排出削減大臣（左上）、梶山経済産業大臣（下）
（2021年7月15日、経済産業省）

●日豪経済閣僚対話

今月、そのフォローアップが行われました。7月15日、訪日したティーハン貿易・観光・投資大臣、オンラインで参加したテイラー・エネルギー・排出削減大臣、そして梶山経済産業大臣により、第3回日豪経済閣僚対話が開催されました。

エネルギー分野について、6月の日豪首脳会談で発表された「技術を通じた脱炭素化に関する日豪パートナーシップ」のもと、アジア地域における現実的なエネルギー移行に向けて協力していくこと、具体的なプロジェクトの更なる進展に向けて引き続き連携していくことを確認しました。そして、COP26に向けて、二酸化炭素の分離・回収・貯留（CCS）、クリーン水素、クリーンな燃料アンモニアに関する協力を優先的に取り組むことに合意しました。

更に通商分野では、CPTPP、RCEP、WTO、サプライチェーンの強靱化等について、日豪が共に取組み、インド太平洋地域で連携していく必要性を確認しました。

同日、ティーハン貿易・観光・投資大臣は茂木外務大臣とも会談しました。脱炭素化に向けた協力など日豪二国間の経済関係強化に加え、TPP11やWTOなど多角的自由貿易体制の維持・強化、OECDでの協力やデジタル貿易の推進を含め、幅広い分野で日豪協力を進めていくことで一致しました。



AJBCC・JETRO 共催ウェビナー（2021年8月10日開催予定）案内状の写真

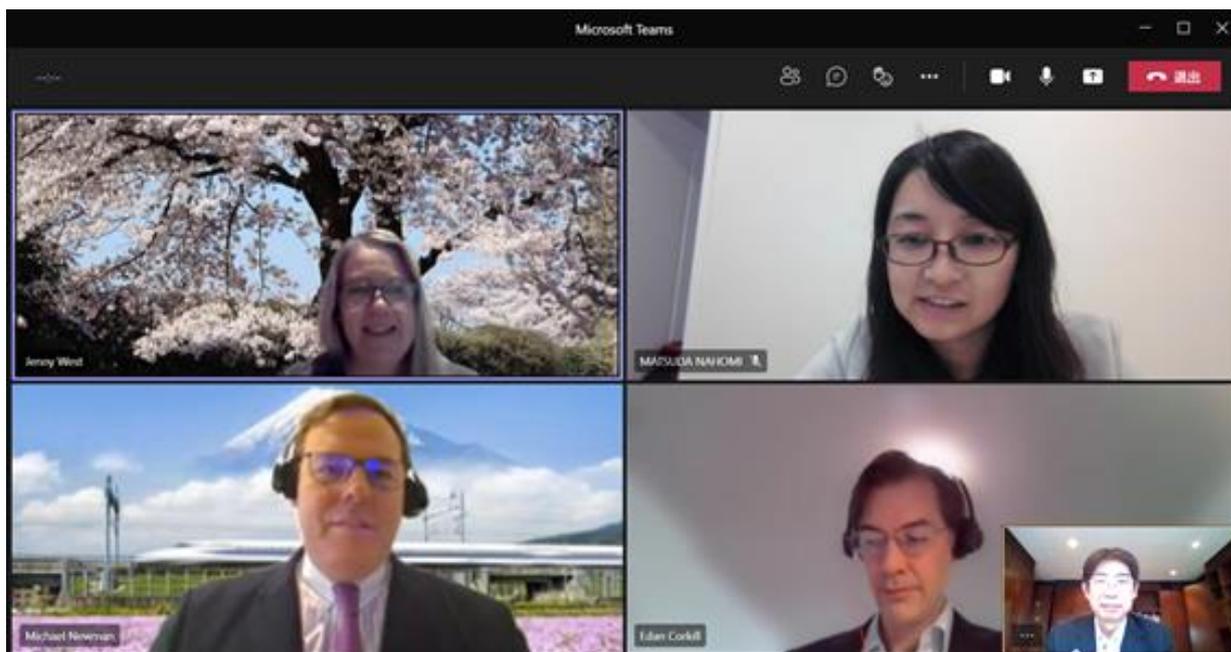
●AJBCC・JETRO 共催ウェビナーの開催

このような首脳・閣僚レベルでの会談と並行して、ここシドニーでも日豪ビジネスを更に推進するための取組を進めています。

日豪の経済界は日豪経済委員会（JABCC）と豪日経済委員会（AJBCC）を設置し、両国委員会の合同会議を1963年から毎年、日豪交互に開催してきました。私も、当地着任直前の2019年10月に大阪で開催された第57回会議に初めて参加し、約400名の日豪双方の出席者とお会いして、この会議の意義を実感しました。しかし、昨年はコロナで延期を余儀なくされ、今回は本年10月に開催予定ということで、年次会議の間の交流をどう強化するかが課題となっていました。

当地でAJBCC、JETROシドニー事務所、シドニー日本商工会議所、更には在日オーストラリア・ニュージーランド商工会議所（ANZCCJ）やその他の日豪ビジネス関係者と意見交換をする中で、年1回の日豪合同経済委員会会議を補完し、かつ日豪双方から広く参加できるウェビナーシリーズを、AJBCCとJETROの共催、その他関係団体の協力で立ち上げるとのアイデアが具体化しました。

第1回は、「日豪水素サプライチェーンの展望－NSW州を中心に－」をテーマに8月10日に英語で開催予定で、既に400名以上が登録しています。この分野にご関心がありましたら、是非ご参加ください。



ニューマン NSW 州駐日上級代表（左下）、ウエスト Investment NSW 副次官（左上）、コーキル日本担当官（右下）との会談
（2021年7月21日）

● Investment NSW の立ち上げと NSW 州駐日貿易投資上級代表の発表

最近のもう一つの大きな動きは、NSW 州政府貿易投資部局の組織改編です。

本年3月29日、Investment NSW が立ち上げられました。これは、従来 NSW 州の各省庁の下にあった貿易投資部局や観光・留学部局などを、首相内閣府の下に統合するものです。エイミー・ブラウン前首相内閣府副次官が Investment NSW の長官となり、ジェニー・ウエスト前財務省副次官が Investment NSW の副次官として日本を含む全世界との貿易と海外事務所を統括することになりました。

そして、7月16日、東京に拠点を置く日本・韓国担当の貿易投資上級代表として、マイケル・ニューマン氏の指名が発表されました。これは、2019年12月に NSW 州政府が発表した世界6拠点（ロンドン、ムンバイ、ニューヨーク、上海、シンガポール、東京）への貿易投資上級代表の配置を具体化するものです。

7月21日に、ニューマン新上級代表、ウエスト副次官とオンラインで会談しました。ニューマン代表は NSW 州出身で、1983年に12歳で初訪日し、1985年から高校で日本語を学びました。その後、一橋大学で1年間交換留学し、金融・調査部門を中心に日本で20年間在勤した由で、日本語が大変流暢です。今後、日本と NSW 州の架け橋になりたいとの決意を伺いました。

ニューマン代表からは、日豪間の組織文化の違いを十分理解して、長期的な関係を構築することが重要であり、これまでの資源やインフラ分野のみならず、日本の中小企業の対豪進出やスタートアップの連携も、今後時間をかけて推進したいとのことでした。

私からは、貿易、M&Aに続く「日豪ビジネス3.0」として、グリーンやデジタルを中心にイノベーションとスタートアップで成長の源泉を具体化するとの方向性の共有が重要であり、まずは日豪企業の先駆的事例をプレイアップすることが効果的と思う旨伝えました。ニューマン代表も「日豪ビジネス3.0」のビジョンに共感するとのことでした。今後、一緒に取り組んでいきたいと思っております。



NTT クライアントイノベーションセンターの訪問
(2021年6月11日)

●NSW州での日本企業の活躍

NSW州では幅広い分野で日本企業が活躍、貢献しています。シドニー大都市圏開発では、2018年に三菱重工業、三井住友フィナンシャルグループ、日立製作所、

UR 都市機構が NSW 州政府と合意文書（MoU）を締結し、その後も 2019 年 4 月に NEC、2020 年 3 月に NTT が NSW 州政府と MoU を締結するなど、日本企業の参画のモメンタムが高まっています。

6 月 11 日、シドニー市内ダーリングハーバーにある NTT クライアントイノベーションセンターを視察しました。このセンターは NTT の顧客との共創促進のための展示施設で、2018 年に国外最初のセンターとして開所したものです。

NTT 豪州・ニュージーランドのタニア・バルコム CEO からは、センターの展示説明に加えて、シドニー中央駅の開発地区テックセントラルのスマートシティ化に向けて、サイバーセキュリティのセンター・オブ・エクセレンスの設置や、スタートアップのインキュベーションを支援する「CyRise ブートキャンププログラム」の展開についてお話を伺いました。まさにデジタル分野で日豪連携により最先端の技術を生み出す取組で、今後の発展を期待しています。



日 NSW 州住宅関係者の意見交換
(2021 年 6 月 17 日)

6 月 17 日には、旭化成ホームズ、大和ハウス、積水ハウス、住友林業の代表と、ペイビーNSW 州不動産・住宅大臣、住宅関係 4 団体代表を公邸に招き、NSW 州の増大する住宅需要に日系住宅企業がどのように貢献できるか意見交換しました。

各社から、各地で進行中の住宅開発事業の紹介に加え、ネットゼロ・エネルギー住宅など環境・持続可能性に配慮した新たな取組や研究開発についても説明がありました。このような日本の強みを豪州の大規模開発事業に活かしていけば、日豪双方にとって大きなメリットになると感じました。

私が1年半前に当地に着任した時は、西シドニー開発という新たなビジネス機会に対する日本企業の関心を高めることが大きな課題でした。しかし今は、水素やスマートインフラなどの追い風で豪州への関心が高まっていることを受けて、一般的な情報発信や啓発よりも、分野毎に具体的なビジネス機会をどう現実化していくかが課題です。このような場を今後も設けていきたいと思えます。



第58回日豪経済合同委員会会議（2021年10月4日～6日開催予定）

● 「日豪ビジネス3.0」に向けて

今回の日豪経済合同委員会会議は、10月4日～6日にアデレードと東京を結んで開催されます。全体のテーマは「激動の時代における共同の取組」で、主要セッションの議題はエネルギー移行、コロナの克服、国際バリューチェーンの構築の3つです。日豪両国の企業と政府が、これらの課題に今後どのように取り組むか議論し、実行に移していく重要な機会です。私も可能な限り出席予定です。

世界が大きく変わる中で、日豪ビジネス協力がこれまでの成功に安住することなく、喫緊の課題に正面から取り組み、日豪両首脳が一致したとおりの「地球規模課題への対応をリードしていく」ことが重要だと思います。貿易、M&Aに続き、お互いの強みを生かしつつイノベーションを通じて世界の課題を解決する「日豪ビジネス3.0」が大きく発展するよう、当地から日豪ビジネスを後押ししていく所存です。ご意見やご提案がありましたら、お気軽にご連絡ください。

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦

G7コーンウォール・サミットでの日豪首脳会談（2021年6月13日）
https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/ocn/au/page1_000987.html

第3回日豪経済閣僚対話（2021年7月15日）
<https://www.meti.go.jp/press/2021/07/20210715008/20210715008.html>

茂木外務大臣とティーハン貿易・観光・投資大臣との会談（2021年7月15日）
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press3_000523.html

AJBCC・JETRO 共催ウェビナー「日豪水素サプライチェーンの展望
ーNSW州を中心にー」（2021年8月10日開催予定）案内状（日本語・英語）
<https://www5.jetro.go.jp/newsletter/syd/2021/0810.pdf>
<https://www.ajbcc.asn.au/2021/07/webinar-a-nsw-panel-discussion-on-australia-japan-hydrogen-supply-chains/>

Investment NSW（英語）
<https://www.investment.nsw.gov.au/>

ニューマン貿易投資上級代表（日本・韓国担当）の任命（日本語・英語）
<https://industrytradeinvestmentnsw.cmail20.com/t/ViewEmail/t/8BE6FF43D014A3742540EF23F30FEDED/BC6889228670F7E1981D23A7722F2DCD>
<https://www.investment.nsw.gov.au/resources/media-releases/new-trade-and-investment-commissioner-to-boost-nsw-business-in-north-asia/>

NTTとNSW州政府のMoU締結（2021年3月30日）
<https://group.ntt.jp/newsrelease/2021/03/30/210330a.html>

第58回日豪経済合同委員会会議（2021年10月4日～6日）（英語）
<https://www.ajbcc.asn.au/joint-conference-2021/>

（以上）